

令和2年3月11日
中国電力株式会社

原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合（第845回）
島根原子力発電所2号炉に関する指摘内容

<第4条：地震による損傷の防止>

（論点Ⅱ-13, 11「水平方向の原子炉建物ー大型機器連成モデルの変更（原子炉圧力容器スタビライザのばね定数変更を含む）他」）

- R P Vスタビライザのばね定数の変更について、詳細設計段階にて既往の試験結果等を用いて、又は必要に応じて試験等を実施して、ばね定数の妥当性を考察し説明すること。
- R P V及びP C Vスタビライザのばね定数変更に伴う地震応答への影響について、原子炉建物とR P Vの固有周期を踏まえて、詳細設計段階にて考察して説明すること。

（論点Ⅱ-5「サプレッション・チェンバ内部水質量の考え方の変更」）

特になし

（論点Ⅱ-9「一定の余裕を考慮した弁の動的機能維持評価」）

特になし

（論点Ⅱ-1「建物の地震応答解析モデル（建物基礎底面の付着力及び3次元F E Mモデルの採用）」）

- ジョイント要素に付着力を考慮した3次元F E Mモデルの適用性について、J E A Cや既往論文で明確に述べていることと、事業者の考え方を区別したうえで、モデルの適用性に関する事業者の考え方を、まとめ資料に反映すること。

（論点Ⅱ-4「建物・構築物の地震応答解析における入力地震動の評価」）

- 表層地盤の物性値を、原子炉建物を代表として一定値とし、すべての建物に適用する方針について、詳細設計段階で代表建物を選定し、現行の設定方法の保守性を示すところがあるが、代表建物の選定にあたっては、重要な施設はすべて影響検討する方針であることを、まとめ資料に反映すること。
- 表層地盤の物性値を一定とすることによる建物や内包する機器配管系への影響についてはその影響度合いを確認し、影響が有意であればその影響を反映して詳細設計を行う方針であることを、まとめ資料に反映すること。

- ①－2層の物性値を線形として扱うことについて、等価線形解析により設定した場合の影響を検討し、詳細設計段階において説明すること。
- 詳細設計段階における2次元FEMモデルの表層地盤の剛性低下率の設定方針を、まとめ資料に反映すること。

(論点Ⅱ-3「基礎スラブの応力解析モデルへの弾塑性解析の適用」)

- 基礎スラブに設置しているピットについて、地震荷重に対する検討を詳細設計段階において実施し、説明すること。
- 既工認における評価項目及び部位を網羅的に整理し、今回工認の評価項目を詳細設計段階において適切に抽出すること。

(論点Ⅱ-2「原子炉建物屋根トラスの解析モデルへの弾塑性解析の適用」)

特になし

以上